

平成29年度 学生市民等協働プログラム 概要

部局名 大学院地域社会研究科

区 分	内 容
事業名	加工用リンゴ作業機械化プロジェクト
指導教員	大学院地域社会研究科 准教授 平井太郎
学生市民等の所属及び人員	地域社会研究科博士課程 大学院生 1名 人文学部学生 2名 弘前大学職員 1名 相馬村農協職員 1名 白神アグリサービス職員 2名
渡航先 (渡航期間)	ドイツ (平成29年9月11日～平成29年9月15日)
実施スケジュール	平成29年 9月11日 青森→羽田→シュツットガルト 移動 " 9月12日 シュツットガルト朝市視察 " 9月13日 ルーカス果樹園・農業機械・経営視察 " 9月14日 ボーデン湖農業研究所・周辺農場視察 " 9月15日 シュトゥットガルト→羽田→青森移動
プログラムの概要	<p>1. 目的： 本事業は平成28年度に着手した加工用リンゴ経営モデル確立に向けた研究を展開するものである。この研究課題は、農水省・革新的技術開発・緊急展開事業に28年度採択（29年度は不採択）されたものであるが、青森県果樹生産振興計画の重点課題にも明記されており、県や東北農研センター等との共同研究の基盤を整えることを目的とする。</p> <p>2. 事業概要： ジュース用だけでなくカット用・プレザーブ用に応用しうる収穫・管理機械について、両者を実際に導入している農場を訪ね現状と課題を明らかにする。さらに、EU独自の地域農業政策LEADERプログラムがドイツの果樹経営や地域経済の安定化に与える影響について聞き取りを行う。</p> <p>3. 教育目標： 青森県の基幹産業のなかでもその基幹を占めるリンゴ栽培について、一見好況に見えるその背後で進む離農・廃園化の原因を把握し、その打開策として、またさらなる成長エンジンとして期待される加工用リンゴの生産・加工・販売の先駆例を調査することで、青森県に対する応用可能性を探る、包括的で実践的な地域農業理解を高める。</p> <p>4. 期待される成果等： 加工用リンゴの経営モデルの確立と普及は、青森県や青森県りんご協会、JAつがるひろさき等の関係者が中長期的には期待しているものであり、しかも、海外における実践・普及状況は国内には十分知られていないことから、本事業による知見の吸収と提供には大きな効果が期待しうる。</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたえる効果・成果等： 安全・健康志向を踏まえ、国産の加工用リンゴに対するニーズは非常に高い。こうしたニーズに応えるべく、加工用リンゴの生産に機械を導入し、人件費の軽減や軽労化を図り、経営として確立させることで、生産量・販売量を底上げさせていくことができると考えられる。</p>

<p>プログラムの様子</p>	 <p>【写真1：ドイツのリンゴ畑】</p>	 <p>【写真2：農業研究所での講義】</p>
	 <p>【写真3：機械によるリンゴ収穫】</p>	 <p>【写真4：リンゴ収穫機械①】</p>
<p>今後の展望</p>	 <p>【写真5：リンゴ収穫機械】</p>	 <p>【写真6：収穫されたリンゴ】</p>
	<p>研究成果は青森県りんご協会機関誌に掲載したほか、中南部地区農業士会等3士会講演会でも発表したことから、中期的な機械の普及が期待される。</p> <p>なおすでに導入された機械については実装が進んでおり、経営モデルの確立にむけたデータ収集・分析も別途重ねていることから、それらの研究成果についても報告してゆく。</p> <p>さらに、東北農研が幹事を務める農水省・経営体強化Pj「各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証」コンソーシアムでも関心が示されており、本事業の成果を含めた研究成果を逐次報告していることから、今後、全国的な普及も期待される。</p>	